

2017/10/2/-10/8 デボーションガイド 「ユースマナ」 詩篇 27:4 私は一つのことを主に願った。 私はそれを求めている。私のいのちの日の限り、主の家に住むことを。主の麗しさを仰ぎ見、その宮で、思いにふける、そのために。	2017/10/2(月) 詩篇 138 篇 感謝と賛美は、神様の御前に進みでるときに、私たちの内から表現されるべきものです。私たちは普段神様に祈る時に、感謝や賛美よりも、願いが先行していることはないでしょうか。 この箇所を読んで、筆者がどのような思いで神様に感謝と賛美を捧げているか思い巡らしましょう。そして、神様が私たちにしてくださった一つ一つのことを覚えて、私たちも神様に心からの感謝を捧げましょう。 また、筆者は神様が自分にかかわるすべてのことを成し遂げてくださる方であることを知って、そのことも感謝しました。まだ見ていないことで、これから先に神様がしてくださることも、信仰を持って感謝して祈っていきましょう！	2017/10/3(火) 詩篇 139:1-16 この詩篇の私のところに、自分の名前をいれてみよう！！神様が私のことを、どれくらい知っていてくれるのかが分かるよ！ 神様は、私という人間を、私の歩む道を、私の普段の心、言葉を、例え離れようとしていても知っていて下さるよ。愛の神様は、君の全てを知って共にいて下さるんだね。 神様は 16 節にあるように、君がお母さんのお腹に形造られた時、神様の書物に君の人生にある神様の計画が全て書かれたんだよ！それは、全て祝福の計画なんだ！君はそれを神様を選ぶことで勝ち取っていくことが出来るよ！！	2017/10/4(水) 詩篇 139:17-24 ダビデは、神様が、自分を徹底して知っておられるとしたら、自分は神様のすべてを知ることができるものだろうかと考えた。私たちは、神様の御思いの高さ、深さゆえにすべてを知ることはいけけれど、主はその一端を私たちに分かち合ってください。私たちは、神様を、聖霊に導かれ、聖書によって知ることができる。 また、ダビデは敵対する人たちに神の救いを求める祈りと、神様が自分の心を探り、知り、調べ、見てくださるようにと願い祈った。 主が私たちのすべてを知っておられることは、私たちにどんな生き方をもたらずだろうか。
2017/10/5(木) ヨハネ 18:1-14 今日の箇所はイエスが逮捕されるところである。 イエスは過越の食事の後、ゲッセマネの園へ向かわれた。そこは、ユダを含めて弟子たちには周知の場所だった。イエスはユダが裏切ることを分かっている、いつものように祈りの場所にいた。そこで汗を血のしずくのように流して祈られていた。 そしてそこにユダ、役人、ローマ兵が来て、イエスを捕らえた。 この時ペテロは、剣を抜き、大祭司のしもべの耳を切り落とすが、イエスは耳を癒された。その場を支配していたのは主のあわれみであった。主の恵みが深い配慮がここにも見られる。 どんな時でも神様は全てを支配している。全てを委ね、信頼し、歩もう！	2017/10/6(金) ヨハネ 18:15-27 今日はペテロが3回キリストを「知らない」と言った印象的な箇所です。まず最初にこの事は3つの福音書全てに記されています。それはペテロ自身が自分の罪と弱さを言い表し、自分がキリストの愛によって許された存在であると確信している事が分かります。 私達も人に対する恐れが膨らむと、まるでキリストを知らないかの様な行動をする可能性があります。それは良い事ではないけれど、まず知るべき事は自分の罪の重さに圧倒されそうな時もキリストは一方的な愛をそそいで下さるという事です。 少し静まってキリストの愛に浸る時間を持とう。	2017/10/7(土) ヨハネ 18:28-40 人々はイエスへの訴えをローマ総督ピラトのところまで持って行った。彼らは過越の食事など律法の決まりなどはきっちり守ろうとしながらも、救い主であるイエス様をなんとしても殺そうとしている。外側のやっていることと、内側の恐ろしい動機からくる訴えの落差が激しい。やっていることがとてもちぐはぐだよね。でも、人々はそれに気づかず、「イエスを殺すこと」を中心に考えて訴え続ける。またピラトもイエス様に真理とは何か問うけれど求めることはしなかった。 私たちにはすでに救いも、真理も目の前に与えられている。それはイエス様がそばにいるからだ。今日その恵みを受けとり、イエス様を慕い求めていこう！	2017/10/8(日) ヨハネ 19:1-16 ユダヤ人はイエス様の解放ではなく、強盗バラバの解放を求めました。ピラトはイエス様を捕らえてむち打ちにしました。ピラトは政治家で宗教的な理由はどうでもよかったのです。ピラトは何とかしてイエス様を解放しようと試みましたが、ユダヤ人と祭司長たちはイエス様を十字架に付けるように要求しました。ピラトには釈放する権威が与えられていましたが、彼は自分の身を守ることを優先してそれを行いませんでした。私たちのうちにも悪いことを見て見ぬ振りをしたり、損得を考えて物事を行っていないでしょうか。 祈り 神様、こんな私を愛し赦してください。感謝します。聖いものとして生きていきたいです。

